



NO. 8
吹田市立豊津西中学校
令和元(2019)年
11月15日 発行

学校目標 教育目標	《人格の形成をめざす》 《社会人としての資質を最大限に発揮させる》 《心身ともに健康な国民の育成をめざす》
----------------------------	---

全国学力学習状況調査について

教科に関する調査結果分析

国語

<概要>

本校生徒の全体は全国値とほぼ同じである。四つの領域別では「話す・聞く能力」が全国値を上回り、「読む能力」は全国値をやや下回る。

<各領域における成果と課題>

【話すこと・聞くこと】

- 「話し合いの話題や方向を捉える」ことは、全国値をやや上回る。
- 「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」ことは、全国値を上回る。
- 「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ」ことは全国値をやや上回る。

【書くこと】

- 「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する」ことは、全国値とほぼ同じ。
- 「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」ことは、全国値とほぼ同じ。

【読むこと】

- 「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つ」ことは、全国値とほぼ同じ。
- 「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」ことは、全国値を下回る。
- 「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ」ことは、全国値とほぼ同じ。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 「封筒の書き方を理解して書く」ことは、全国値を下回る。
- 「語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する」ことは、全国値を上回る。

<国語のまとめ>

○全体では全国値をやや上回った。「話すこと・聞くこと」に関しては、全国値を大きく上回ったが、「読むこと」に関しては全国値を下回るものもあり、今後の課題である。語句の意味を理解して語彙を増やし、文脈の中で適切に使う力をつけていく必要がある。

<指導改善のポイント>

【語彙力と知識】

- 封筒の書き方や手紙の書き方、報告書の書き方などの実生活に生きる実践的な学習をもっと授業に取り組んでいき、その能力と知識をつけさせる。
- 教科書はもちろん、その他新聞などから文章を読み、言葉の習得を図る。

【漢字】

- 少ない範囲で練習回数を増やし、定期的に小テストを実施して定着を図る。
- 漢字の意味を理解して、その漢字を使って作文を書く。

【古文】

- 基本的な古文の文章を読み、古文の文体や仮名遣いに親しむ。
- 音読、暗唱を取り入れ、古典のリズムや、表現方法を身近に感じる機会を増やす。

【文章】

- 読み解き読解だけにとどまらず、自分の感想や意見を記述する機会を増やし、書くことに対する苦手意識を克服させる。
- 思考ツールを活用するなどして、自分の思考を整理して書く力を育てる。
- 論理的な文章を学ぶ際に、客観的で明確な根拠を意識して読む。
- グラフや表、イラストなどから自分の考えをまとめて述べる力をつけさせるために、そういった形式の問題に取り組む機会を増やす。

数学

<概要>

全体の平均正答率が全国値を上回る。
評価の観点別に、「数学的な見方や考え方」「数量や図形などについての知識理解」の2観点において平均正答率が全国値を上回る。
問題形式別に、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて平均正答率が全国値を上回る。

《学習指導要領の4領域について》

<全国値より高く優れていて、引き続き伸ばしていきたいこと>

【数と式】

- 「数の集合と四則計算の可能性について理解している」割合は、全国値を上回る。
- 「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」割合は、全国値を上回る。
- 「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる」割合は、全国値を上回る。
- 「事柄が成り立つ理由を説明することができる」割合は、全国値を上回る。
- 「総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる」割合は、全国値を上回る。

【図形】

- 「平行移動の意味を理解している」割合は、全国値を上回る。
- 「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」割合は、全国値を上回る。

英語

<概要>

全国平均値・大阪府平均値よりやや上回っていた。評価の観点別では、「外国語表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」において、平均正答率が全国値を上回る。問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式（話すこと）」において平均正答率が全国値を上回る。

《学習指導要領の4領域について》

<概ね全国値より優れていて、継続して伸ばしていきたいこと>

【聞くこと】

- 「語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる」
- 「教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる」
- 「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」
- 「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる」割合は、全国値を上回る。

【話すこと】

- 「月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる」
- 「基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる」
- 「聞いて把握した内容について、やり取りすることができる」
- 「与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる」割合は、全国値を上回る。

【読むこと】

- 「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」
- 「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」
- 「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる」割合は、全国値を上回る。

【書くこと】

- 「文の中で適切に接続詞を用いることができる」
- 「一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」
- 「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」
- 「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」
- 「与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる」
- 「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる」割合は、全国値を上回る。

以下、「豊西中だより」No.9へ続きます。

【関数】

- 「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる」割合は、全国値を上回る。

【資料の活用】

- 「簡単な場合について、確率を求めることができる」割合は全国値を上回る。
- 「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」割合は全国値を上回る。
- 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」割合は全国値を上回る。
- 「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる」割合は全国値を上回る。

<全国値より低く課題となること>

【図形】

- 「反例の意味を理解している」割合は、全国値を下回る。
- 「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」割合は、全国値を下回る。

【関数】

- 「反比例の表から、xとyの関係を式で表すことができる」割合は、全国値を下回る。
- 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」割合は、全国値を下回る。

《数学における成果と今後の改善点において》

<成果>

- 他者の考えをヒントに自分の考えを広げる、他者に自分の考えを伝えながら、ペアやグループで、自分と他者の数学的な考え方を交流する“対話的な活動”を続けてきた。他者の考えから気づきがある生徒の姿が多く見られるようになった。その結果、「知識理解」の習熟だけでなく、「数学的な見方や考え方」の充実につながったと考えられる。
- 授業内容の振り返りを自分の言葉で書く“主体的な活動”を毎時間続けてきた。授業内容を振り返ることで知識を定着し、考えを整理できている姿が見られるようになった。その結果、課題から数学的な内容を適切に読み取ったり、説明したりする力がついてきたと考えられる。また、自分のノートへのメモが増えた生徒も見え始めた。その結果、考えを深めることができ、「数学的な見方や考え方」の充実につながったと考えられる。さらに、「選択式」「短答式」だけでなく、「記述式」の問題にも粘り強く考える力が身についてきたと思われる。

<今後の課題>

- 数学的な技能の観点が弱いので、反復練習の機会を増やすことで得た知識を使って処理する力をつけていきたい。
- 授業内で、数学のきまりや定理と具体的な場面とのつながりを考える活動をより充実させていきたい。また、数学科の中だけでなく、理科や技術科など、他教科や総合的な学習の時間との関わりなど、学校全体のカリキュラムの中に、数学の授業が活用されるような場面も設定していきたい。そうすることで、数学の力が生きる力に変わっていくと考える。



NO. 9

吹田市立豊津西中学校
令和元(2019)年
11月15日 発行

全国学力学習状況調査について その2

NO.8 のつづき

<全国値より低く、これから改善していかなければならないこと>

【聞くこと】

- 「まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる」
- 「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」割合は、全国値を下回る。

【話すこと】

- 「適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる」割合は、全国値を下回る。

【読むこと】

- 「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる」
- 「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」割合は、全国値を下回る。

【書くこと】

- 下回る項目はなし。

《英語における成果と、授業を進めるにあたり今後の課題について》

<成果>

- 一昨年度から取り入れてきたスピーキング向上ツールを使ってきたおかげで、コミュニケーション活動に積極的に取り組めるようになり、やりとりは少しずつではあるが上達してきたように思う。
- また、いろいろな英語のコミュニケーション活動を実施して、生徒の語学に対する姿勢や取り組み方も改善されてきている。
- 民間業者テストにも積極的に参加するようになり、テストに対する恐怖心や不安など軽減されるようになっている。

<課題>

- このテストでも出題されていたように、技能統合型の出題が今後はあると予想されるので、授業の中でも技能統合のコミュニケーション活動を実施していきたい。
- 「話すこと」の出題の中で、粘り強く考えなければ解けないような問題に関して、無答率が全国値と同様に高かった。日頃の授業から諦めないで続けていく態度を培っていきたい。
- 「読むこと」の出題の中で、少し長い文章や内容が複雑な問題の結果も正答率が低かった。今後の課題として、長文に慣れていく授業も必要であると感じている。
- 選択式の問題では回答率と正答率が高いが、記述式の問題では正答率が低く無答率の割合が高くなっている。やりとりの中で自分の意見を英語で言えて書けるようにもしていきたい。

生活習慣や学習環境に関する調査結果分析

【自分自身について(自尊感情、自己有用感、規範意識など)】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」については、全国値を上回る。
- 「学校の規則を守っていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」については、全国値をやや上回る。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、全国値をやや下回る。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」については、全国値を下回る。

【基本的生活習慣について】

- 「朝食を毎日食べていますか」については、全国値とほぼ同じである。
- 「読書は好きですか」については、全国値を上回る。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については、全国値をやや下回る。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」についても、全国値をやや下回る。

【学校生活、学校での学習について】

- 「総合的な学習の時間は、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」については、全国値を上回る。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」についても、全国値を上回る。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」については、全国値を下回る。

【地域などとのコミュニケーションについて】

- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」については、全国値をやや上回る。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」については、全国値を下回る。

今後の取り組み

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、これまでの指導を活かしつつ、次のような取組を進めます。

- 習熟度別授業や少人数授業など、個に応じたきめ細かな指導を推進します。
- 個人での学習だけでなく、グループ学習やペア学習など、多様な学習形態を通じて、学びを深化させる手法を追求します。
- 生徒会、学級委員会で「月目標」を定め、生徒自ら進んで、学校生活の改善に取り組めるよう、環境を整えます。
- 授業、学校行事、その他、学校教育活動全体を通じて、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団づくりを目指します。
- 毎学期実施している「社会性測定用尺度」調査を分析し、その結果を集団作りに活用します。